

順位表 10/6現在  
 基本 31試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、  
 岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	73p	+38	57	19	A●
2	今治	57p	+17	48	31	A○
3	富山	54p	+18	41	23	H△
4	北九州	48p	+5	31	26	H● A●
5	沼津	47p	+10	47	37	H● A●
6	福島	46p	+9	47	38	H○ A●
7	FC大阪	45p	+7	32	25	A△
8	松本	44p	+7	45	38	A○ H●
9	相模原	43p	0	31	31	A△ H●
10	八戸	42p	0	34	34	H● A●
11	金沢	42p	-1	44	45	A△ H○
12	琉球	41p	-6	38	44	H△
13	鳥取	40p	-12	36	48	A○ H●
14	岐阜	36p	-6	44	50	---
15	讃岐	35p	-1	38	39	H○ A●
16	長野	33p	-9	39	48	A●
17	宮崎	33p	-9	35	44	H● A○
18	YS横浜	31p	-18	27	45	A○ H○
19	奈良	30p	-13	37	50	A● H△
20	岩手	21p	-36	22	58	H○

次回HomeGame

第34節 vs.FC今治

10/26 (土) 15:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
 年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
 「おかえりなさい」が似合う  
 アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
 JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
 休:月曜日

今日もここから  
 串かつで一杯

煮込み珍道中  
 串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)  
 ※売り切れ次第、終了です  
 <定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋  
 通り

JR 岐阜駅  
 北口より  
 北西方面へ  
 徒歩約 10分

★

アミカ

ドロー  
 イン

JR  
 岐阜駅

通算対戦成績	全 9 試合 ( J3 : 9 試合 ) 岐阜 2 勝 / 長野 3 勝 / 4 分け Jリーグ岐阜ホーム戦 : 1 勝 2 分 1 敗			
直近の対戦結果	2024/05/03 J3 - 12 節 @ 長野 U <b>長野 2-1 岐阜</b> 得点者: 田口裕也			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/10/06 J3 - 31 節 @ どうスタ 福島 4-3 岐阜 2024/09/28 J3 - 30 節 @ 長良川 岐阜 1-0 金沢 2024/09/21 J3 - 29 節 @ ミクスタ 北九州 2-0 岐阜	長野	2024/10/05 J3 - 31 節 @ 長野 U 長野 1-1 松本 2024/09/29 J3 - 30 節 @ どうスタ 福島 0-0 長野 2024/09/21 J3 - 29 節 @ A x i s 鳥取 2-0 長野

● J3 リーグ 2024 シーズン、またしても、閉塞感のある試合結果が続く FC 岐阜。9/28 (土) 第 30 節・ホーム金沢戦は、前半 17 分に C K から # 37 寺阪尚悟が先制。後半の途中からは金沢に押し込まれる時間帯が続くが、粘り強い守備で同点を許さず、1-0。無失点で 4 試合振りの勝利を飾ることができた。続く 10/6 (日) 第 31 節・アウェイ福島戦は、試合の序盤から福島の走力に圧倒され、守備を崩されて 2 失点。そこから岐阜が立て直して 2 得点を奪うものの、前半 A T に 3 失点目を奪われて前半を折り返す。後半は岐阜が優勢に試合を進めるが、# 2 岡崎慎の退場で形勢が不利に。しかし相手 G K のミスを逃さず # 11 藤岡浩介が同点弾。その後も数的不利ながらもゴールを許さない岐阜だったが、試合終盤に決勝点を浴びてしまい、3-4 で競り負けてしまった。

この 2 試合の結果、岐阜の順位は 14 位と変わらず、6 位 (= プレーオフ出場圏)・福島との勝点差も 10 と、差を縮めることができなかつた。一方で、( J F L 入れ替え戦が想定される ) 19 位・奈良との勝点差は 6 と、わずかに 1 だけ拡げることができたが、下位チームは生き残りを懸けて必死に戦っている。下位 6 チームが直近 5 試合で積み上げた勝点は、実は岐阜よりも多いという厳しい現実を、我々は受け止めなければならない。過去の傾向では『残留ライン=試合数の勝点』と言われている。岐阜は残り 7 試合で勝点 2 以上を積み上げなければ、残留争いで生き残れない。ただし現在の下位チームの成績を考慮すると、それでは足りないかもしれないという危機感を持つべきだし、少しでも多くの勝利、多くの勝点を積み重ねて順位を上げる努力を続けることこそが、将来に繋がってゆくはずだ。この試合でも、真摯に必死に最後までひたむきに戦って、勝利そして勝点 3 を掴み取らなくてはならない。

さて、今節の対戦相手は A C 長野パルセイロだ。昨季は下位に低迷し、第 23 節から高木理己監督が就任して立て直しを図るが、最後まで調子を取り戻すことができず、14 位に終わった。そして今季は当初から高木理己監督体制の元で、スタッフや選手を大幅に入れ替えて臨んだが、今季もなかなか調子を向上にすることができず、現在の順位は 16 位。直近 5 試合の成績も 0 勝 4 分 1 敗・2 得点 4 失点と低迷しているが、先述したように岐阜の直近 5 試合の成績は 1 勝 0 分 4 敗・5 得点 12 失点と、長野よりも悪い。そして岐阜と長野の勝点差は 3。“勝点 6 マッチ”の激しい試合になるだろう。長野との対戦成績は、岐阜の 2 勝 4 分 3 敗・14 得点 13 失点。昨季のホーム戦・7/22 (土) 第 19 節は、岐阜が試合の主導権を握り、何度も惜しいシーンを作るが決められない。ようやく試合終盤に先制点を挙げるが、直後に長野の逆襲に遭って同点にされてしまい、1-1 の引き分け。そして直近の対戦である 5/3 (金・祝) 第 12 節・アウェイ戦は、前半に先制することができたが後半は長野のペースに。大怪我をした # 1 茂木秀の代わりに入った G K # 31 上田智輝の P K ストップなどもあったが、試合終盤に立て続けに 2 点を奪われ、1-2 の逆転負け。今節は、戦績を互角に戻すためにも、しっかりと勝利したいところだ。

長野で最も警戒すべき選手には、やはり現在 13 ゴール、J 3 得点ランク 1 位タイの # 18 浮田健誠を挙げる。昨季は岐阜に所属したものの、活躍できず長野に移籍。今季はチームにフィットして覚醒している。ただし、ここ 7 試合は得点がなく、また途中出場に回っている。今節は“恩返し弾”を狙っているだろうが、それを許す訳にはいかない。また、# 8 近藤貴司や # 14 三田尚希など、献身的に走るベテラン選手にも要注意だ。個人的には、かつて岐阜を指揮した行徳浩二・元監督 (2012 ~ 2013 年 : 現・カンボジア代表暫定監督) の子で、名古屋から育成期限付き移籍した、# 4 行徳瑛の出場にも注目したい。一方の岐阜では、前節 2 ゴール・今季通算 12 ゴールの # 11 藤岡浩介が、今節も得点を量産する姿に期待したい。また、前節の退場で # 2 岡崎慎が 2 試合出場停止。代わりに誰を起用するのか、戦術をどうするのか、天野監督の手腕にも注目だ。

負の悪循環に陥ってしまった感のある岐阜。そんな時だからこそ、僕らサポーターの拍手と声援で、下を向いて消極的になりがちな選手たちを鼓舞しよう。時には愛のある叱咤激励を贈り、岐阜の勝利を信じて最後まで、選手たちの背中を後押ししよう。そして今節も、“HYPER CHANT”の凱歌を、ホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

## 【第30節】岐阜 1-0 金沢

●とりあえず勝てたことに安堵。決していい状態ではなかった岐阜と、それに輪をかけて良くなかった金沢。存外早い時間帯にCKのボールを合わせた寺阪尚悟のゴールを守りきっての勝利。試合後のヒーローインタビューを受けていた寺阪、まだまだ初々しかったね(笑)。

しかし、この試合でいただけなかったことが、それは藤岡浩介に代わって投入されたイ・ヨンジェのパフォーマンス。時間帯と試合展開を考えれば、彼のようなベテランのプレーヤーならするべき事はベンチから指示を受けなくてもある程度理解できそうなものなのだが、ボールに競れない、走れない、追えない、まるで試合に入れていないというか独りよがりのようなプレーぶり。終盤の岐阜は1人少ない状態で戦っているように見えたのは自分だけではないだろう。もしコンディションが万全でない状態だったとしたら、そのような選手をメンバーに入れまた起用した監督・コーチ陣の責任でもある。金沢といえば、この夏の移籍期間に岐阜から移籍していった田口裕也。その田口にも決定的な仕事をさせることはなかった(というよりほとんどボールに絡む仕事はできていなかったような)。

試合後、岐阜のゴール裏に挨拶に来た田口の目には涙が。彼がどんな思いで移籍していったのかは知る由もないが、移籍してから全く得点が挙げられていないこと、チームが7試合勝てていない状況、古巣相手に決められなかった悔しさ、いろんな感情が混ざりあつてのことだったのだろう。自分がステップアップするための覚悟を決めた移籍だったはずなのだから、更に自分を磨いて更に上のカテゴリーで活躍できるようなストライカーになってほしい(但し岐阜戦以外で)。

残り8試合、数字の上ではプレーオフ圏内に食い込むことも全く不可能ではないわけだが、まずはしっかりと残留を決めることが先決だ。(岐阜の誇り)

●4連敗中の岐阜と、5試合未勝利の金沢。胸スポンサー様のサンクスマッチ。限定ユニ着用試合。これでもかと岐阜に不利なフラグが立ちまくって(苦笑)、どうなることかと不安だったんですが……。さて、スタメンを大幅に変更してきた岐阜。ようやく、結果が出ない場合には選手を入れ替えるという、健全な競争が見られるチームになるのかなと少し期待。そしてメンバーが替わった影響もあつてか、縦・前への意識が強いサッカーに変化していた。ちょっと雑なんだけど(苦笑)、素早くプレーする意識が強いように思えた。これまでは、丁寧にプレーすることばかり心がけていて、素早い相手の寄せに対応できていない(だから後ろに下げてしまう)ことが大きな問題だと僕は思っていたから、この方がイライラせずに見ていられます(笑)。そして前半17分には、#6北龍磨のCKを#37寺阪尚悟がどんぴしゃのヘッドを叩き込んで先制点！完全にデザインされた、お見事なゴールでした。一方の金沢は……なんか、「うちよりも調子が悪いチームって、いるんだなあ」という感想が自然に出てきました(苦笑)。せっかくプレーオフ圏内あたりの順位をずっと維持できていたのに、欲張って新しい選手を補強して投入したもんだから、逆にチームバランスが悪くなって調子を落としたんじゃないかなあ……(苦笑)。いやあ、サッカーって、ホントにバランスの調整が怖いスポーツですよ。とはいえ、後半途中からは金沢も切り替えて、縦へ裏抜けのボールを狙うように。一方の岐阜は、得点こそ無かったものの#11藤岡浩介が前線で実に献身的な守備をしていて、それもこの試合のポイントだったと僕は思う。だけど#11藤岡が下がってからは、途端に前線の守備が効かなくなっちゃって(溜息)。しんどくて長い時間が過ぎて、ようやく掴んだ勝点3。4試合振りの勝利。まあ、どんな内容でも、今は勝つことが重要。そこに収穫と(少しの)課題があれば、なおヨシ。これでJ3残留争いに少しは目鼻が付いたけれど、まだ油断はできない。1つ1つ、貪欲に勝点を積み上げて欲しいものです。(ささたく)

●この試合は一般入場の列整理が始まる前に入場。ほぼ、ベストな位置に座席を確保して屋台村へ。ヤケに赤色が目立っていたけど、時間が経つに連れて緑色がワラワラと。ちなみに、ボクは今季の限定ユニ。ソレもGK版なんで、パツと見にはどここのサポか、わかんなかったかも？

この観客は5400オーバー。久しぶりに入ったね。さらには、胸スポ様のサンクス・マッチ。たいがい、こういう時にやらかすのが我が軍の伝統芸。なのに、ウノゼロでの完封勝ち！しかも、前半早目のCKからアタマで決めた『虎の子』の1点を守り抜くとか。いったいせんたい、どうなってんだぜ？そんな感じだったんで、終了間際に「主審、そろそろいいでしょ！」と叫んでしまいました(反省)。しかし、アノ展開からアイダ出すか？コルリの度胸に乾杯！

ただ、冷静になって振り返れば、決してホメられた内容ではなく、ぶっちゃければ「コレでプレーオフとか、どうよ？」と言いたくなるような金沢の出来具合に救われた気がしないでもない。試合後の金沢サポさん達の対応も理解はできる。しかし、なんでコースケ替えたのかな？次代のエースと思つてた選手を提供した上に、さらにピッチ上でも手綱を緩めたようにも見えた。金沢に何か借りでもあるのかな？あと、ウチの伝統芸？『秘技・恩返し弾』を喰らわなくてホツとしたよ(苦笑)。あんなにイイ感じのチャントも作ってもらえてよかったね。早く、点キメてあげてよ？>71番。

さて、未だ、予断を許さない残留争い。早く切り替えて次節・福島戦に臨んで欲しい！(ぐん、)

●前半の早いうちにセットプレーから失点し、反撃を試みるも前線からプレスかけられて思うようにボールが運べない。後半なかばになるとボールは持てるようになるけど、それは相手がキッチリ退いてブロックを作っているからに過ぎなくて、後ろからサイドにボールが動いているだけ。数少ない、中にボールが入ったチャンスもシュートはGK正面。そのまま0-1で試合終了の笛を迎える……。

見覚え、ありません？正直言って、見慣れた感すらある『ダメな時のFC岐阜』の試合展開。でも、上の描写はこの第30節の金沢のサッカーだった。じゃあ、FC岐阜が良かったのか？という、決してそんなことはなく、ホントの決定機は寺阪のゴールに結びついたCKくらい。つまり、この試合は「よくないFC岐阜 vs ダメなFC岐阜(のコピー)」の試合だったわけだ。別にクサしてはいないよ。逆に、誉めているくらい。つまり、「よくないFC岐阜でも勝ち点3を獲ることは出来る」ということだ。天野監督からやっと『暫定』が取れたからか、大橋ヘッドコーチの功績なのか、クラブが「J3残留争い」を明確に意識したからなのか。やっと、本当にやっと、『内容より結果』のサッカーに振れてくれた。ボールは動かせるけれど自分は動けない中盤の構成をやめ、3バック(守備時は5バック)で重心は後ろめに。

とはいえ、ヨンジェをピッチに送り出す時に天野監督が出した指示と、彼のプレーに対する評価は訊きたいところではある。コースケに替えてヨンジェが入ってから「10人vs11人の戦い」になっていたという見解は、試合後の感想戦で周囲の観戦仲間からも聞かれた。ぼくだけのモノではない。(吉田 鑄造)

## 【第31節】福島 4-3 岐阜

●霧雨の降る秋の福島。いやあ、少し前まで真夏日だった岐阜から比べると、涼しいのなんの(笑)。その天候もあるのか、試合序盤から福島の強烈な走力に圧倒される岐阜の選手たち。開幕戦の時は、もう少しパス主体のチームだったような記憶があるんだけど、この試合の福島は、とにかくよく走る。長い距離でも素早く寄せて、ボールを奪ったら複数名が前を向いて、ドリブルを仕掛けてカウンター攻撃。陣形が崩れようと「味方がフォローしてくれるし、こっちが攻撃してれば問題ないでしょ？」とばかり。1人を止めても、二の矢・三

の矢が飛んでくる。その攻撃の迫りに岐阜は対応できず、マーカーを外されてスペースを突かれて立て続けに2失点。しかも#40 樋口寛規に“恩返し弾”を2回浴びる(溜息)。これは虐殺モードか……と不安がよぎったけれど、2失点目の直後に選手たちが自主的に円陣。ここから岐阜も、どっちかというところからフィジカル重視、ドリブル攻撃にシフト。それでも福島よりはパスが主体で、福島の寄せが速いのでボールがずれて奪われてしまう。ただ、流石に福島も、あの強度のサッカーを最後まで維持することはできず、少し強度が落ちた前半30分、G前に素早く抜け出した#11 藤岡浩介が1点を返すと、前半34分に、今度は#6 北龍磨がG前に抜け出して同点弾! だけど、再び息を整えた福島……というか#10 森晃太にまたも自陣を切り裂かれ、前半ATに3失点目……(溜息)。やっぱり、終盤に(他チームと比して)足が止まっている気がします。後半の入りは良くて、お互いに惜しいシーンが生まれる。だけど、#2 岡崎慎が一発レッドで退場……。タイミング的に不運だった面もあるけれど、主審の目の前で、不用意に足裏で相手の腿を蹴ってしまったから、どうしようもない。猛省してください。これは苦しくなる……と思ったら、逆に福島が油断してしまったのか、GKのミスを見逃さずにボールを奪った#11 藤岡が冷静に決めて自身2点目! ……と、ここからが大問題。プレーオフ圏内争いをしている上位にアウェイで数的不利だけど、なんとか同点……ときたら、今の岐阜なら勝点1を死守するべきだと思うんですが。守備陣を楽にするために、ポジション適性が低いんだとしても、投入するのはピッチ全体でボールを走って追い回せる若手選手(この時のベンチだと#7 河波櫻士)じゃないのかしら。なんでベテラン選手を投入したかな……金沢戦でも同じようなピンチになったと僕は認識しているんですが、チームでは違う認識なんじゃないか(溜息)。あくまでも勝ちにこだわったのかもしれないけど、結局は走力が補給できず、ずるずると守備ブロックが下がってしまい、試合終盤に決勝点を奪われて敗戦……。可能性の低い勝点3をギャンブルで狙いに行って、勝点1までも失ってしまったような、そんな悔しい敗戦だった。(ささたく) ●う〜ん、3点取っても勝てないか……。奪った3点は天晴れなゴールばかりだったのに。北の今季初ゴールなんかはゴラッソ! としか言いようがないし、3点目も相手GKのミスを誘発させたチェイスと位置どりがよかったよね。それだけになあ(嘆息)。

岡崎の赤紙は不運。スライディングした際に、何か、引つ掛かったような不規則な動きになって、足裏が上がったまま接触。いや、ホント〜に不運としか言いようがない。それでも、判定は妥当。残念に過ぎるがやむなしなプレー。そういや、決勝ゴールの際も、いったんは副審の旗が上がったけど、直接の関与はなかったように見えた。オンサイドの相手選手に対する詰めが甘かったんじゃないか……というのは酷かなあ? でもね。やっぱり、勝点1でも欲しかったよ。とはいえ、前半はポスト、後半はクロス・バーに救われた場面もあった。先制されたのはしかたないとして、その直後の失点とか、前半終了間際の失点とか、やられちゃいけないところでやられる。それが何回もあつたら、勝点1は逃げてしまうよね。今後の試合では、勝点1をひとつでも積み重ねられるようにして欲しい。

雨の中、終了まで後押ししてくれた現地組の皆さん、お疲れ様でした。(ぐん、)

## J3 残留争いの動向と、10/6 時点の JFL 順位表。(残り7 試合)

FC岐阜と「自動残留ラインの勝ち点差(どれだけあれば得失点差に関係なく残留できるか)」は『4』から『5』にわずかながら広がった。しかし、もし金沢に負けていたら、これが『2』になっていたわけで、いかに目先の勝ち点3、勝ち点1が大事になっているかということ。残留争いとは、そういうもの。でも、福島戦での選手起用をみると、チームは「残留争いをしている」という認識がなく、いまだに「目標はJ2昇格プレーオフ」という『甘美な悪夢』を見ているのかもしれない……。

では、まずはJ3 下位の今後の対戦相手。

岐阜	讃岐	長野	宮崎	YS	奈良	岩手
H長野	A沼津	A岐阜	H富山	A今治	H大阪	A鳥取
A岩手	H宮崎	H琉球	A讃岐	A相模	A八戸	H岐阜
H今治	A奈良	A沼津	H大阪	H松本	H讃岐	H大宮
H大阪	A八戸	AYS	A松本	H長野	H福島	A金沢
A富山	H北九	H八戸	A沼津	A大阪	A相模	H松本
H大宮	H今治	A北九	HYS	A宮崎	H岩手	A奈良
A琉球	A長野	H讃岐	A今治	H北九	A金沢	H福島

現時点での6強との対戦を多く残している(=勝ち点3を得るのが難儀)なのは岐阜、讃岐、宮崎の3。下位同士の対戦『勝ち点6マッチ』を多く残しているのは讃岐、長野の3。讃岐は上と下とも多く残しているの、いわゆる「ゲーム・チェンジャー」になりえる存在だ。次にJFLの状況。

1 高知	48p +16	
=====		
2 栃木C	47p +18	
-----		
3 滋賀	38p +16	
4 Honda	36p +8	(2025 J3 ライセンスなし)
5 V大分	36p 0	
6 三重	35p +2	
7 青森	34p +7	
8 沖縄	34p +6	(2025 J3 ライセンスなし)

高知の減速が継続中。アウェー鈴鹿戦、ホーム栃木C戦とともに0-2で落としてしまった。追う栃木Cは下位の新宿とは引き分けたものの、台風で延期だった三重戦、上記の高知戦の「水曜→日曜の連続アウェー勝ち点6マッチ」を連勝、ついに首位・高知との勝ち点差は1に。ぼくは高知 vs 枚方と三重 vs 栃木Cを現地で観て、高知 vs 栃木Cの結果は容易に予想できた。高知失速の原因はおそらく簡単には解決しない。これは完全に『J3 残留争い側の目線』での発言になりますが、順位が入れ替わって栃木Cの優勝、高知の2位となった方がJ3の19位は残留の可能性は上がる気がする(この場合、栃木Cは自動昇格、J3最下位は自動降格、高知とJ3・19位のH&Aの入替戦に)。

3位以下は、滋賀がようやくスイッチオン。残り7試合で勝ち点9(高知までだと勝ち点10)差は遅きに失した感強いけれど、いまの高知の失速ぶりが続くようだとわからない。滋賀は高知・栃木C・Hondaの試合を終えているのもアドヴァンテージだ(高知も栃木CもHonda戦を残している)。

『岐大通』では、FC岐阜のJ3残留が決まるまで、JFL順位表などの情報を掲載していきます。(編集人:吉田铸造)